

防犯 最新線

第9話 藤枝自主防犯隊

防犯防災への共助の力



パトロールに出発するメンバーら＝藤枝町小六田の藤枝公民館前で

「こんばんは。ご苦勞さん」。雪がうつすら舞う2月11日の夜、メンバーらは公民館前で白い息を吐きながら声を掛け合った。FBCの文字が目立つそろいの帽子とジャンパー姿。肌を突き刺すような寒さに負けず、藤枝の人たちは熱っぽくて人味を感じる。

防犯活動は防災活動と同じ2008年から始まった。FBCは「藤枝防災クラブ」の頭文字。仕事を掛け持つ50代、60代の男性30人が登録し、毎回半数の人が参加する。パトロールの日を毎月11日、22日と決め、12月に防災訓練を催すなど防犯、防災の一体的な活動を展開する。萩野哲也会長（58）は「防犯も防災も共助する上で一緒。みんながお互いの顔を知っていたら助けたくなるでしょ」と語る。パトロールでは西の百々木・向イ郷、東の新屋敷、南の奥廻間の3コースに分かれて住宅地を回る。天白川の堤防道のほか、三重銀行裏の人が通れる程の狭い道も歩く。防犯灯の球切れや消火栓の点検も怠らない。地区では数年前に車上狙いの被害があった

が、他に目立った報告は聞かないという。

藤枝のチームカラーは「若さ」。なので、車を使わない歩行が基本だ。もう一つはメンバーに「萩野」姓が多いことだ。区の会計・萩野昭三さん（55）は7年前、単身赴任先から地元に戻り活動に加わった。「小学校や消防団の頃からの何十年という付き合いなので絆は強いよ」と話す。40代の頃移り住んだ山田博さん（68）は「名古屋からこちらに帰ると気分がほっとするね」と地元を愛し、入会して3年の黒田武美さん（65）も「ゴルフコンペにも誘ってもらい感謝の一言」とすつかり溶け込んでいる。若手の萩野伸介さん（50）は「この会は地元を大事に思う青年団的存在。日進の中心の藤枝から市を盛り上げようという強い意識を感じる」と語る。

区には現在721世帯が加入。独り暮らしのお年寄りが増え、20軒程ある。鈴木信行区長（67）らは「共助」の大切さを訴える。「いざという時に弱者となる人をケアできるように今後も市民目線で見守っていききたい」（広）

不審火に毎晩警戒



戸締り用心、火の用心一。

日進市内で昨年からは不審火が相次いで発生しています。尾三消防本部の統計によると、昨年1年間、市内で火災が31件発生しました。このうち、放火または放火の疑いが原因とされる火災は17件と、全体の半数を上回りました。

5月には、折戸町の線路法面をはじめ岩藤町の雑木林や空き地計4カ所で、わずか2時間のうちに雑草などが焼かれる連続不審火が発生。その後年末にかけて、藤島町や岩崎町など

では住宅や駐車場に止めていた車6台が燃えるなどの被害が続いています。

事態を受けて同本部日進消防署は巡回頻度を毎晩に増やし、警戒を強化＝写真。放火をさせない対策として、同署警防課の川本邦彦課長補佐（44）は「家の周りに燃える物を置かず、夜間に留守を悟られないよう家の中も外も照明で明るくしてください」と呼び掛けています。3月1日から7日までは、春の全国火災予防運動の期間。皆様のご協力をお願いします。